

科目名	地域養生看護学実習(在宅)			ナンバリング	INE151	授業形態	実習
対象学年	3 年	開講時期	前期・後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	スーディ神崎和代	担当教員					

授業の概要	訪問看護ステーションにおける実習を通して、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での生活を継続していくための看護上の課題の抽出と、対象の特性や強みを生かした課題解決のための看護展開に必要な看護実践能力を身につける。また、在宅における訪問看護ステーションなどの社会資源活用の現状や、他職種との連携・協働における看護職の役割について理解を深める。						
到達目標	1. 在宅療養者とその家族の生活を総合的に理解できる。／ 2. 在宅療養者とその家族に必要な看護上の課題を理解し、説明できる。／ 3. 在宅療養者とその家族に必要な看護目標・計画の妥当性がわかる。／ 4. 訪問看護(訪問看護ステーション等)の役割・機能について説明できる。／ 5. 地域の特徴に応じた保健医療福祉の連携について理解できる。／ 6. 学習者として責任ある態度で実習に取り組むことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	1. 地域養生看護学実習(在宅)要項および、看護実習共有要項を熟読して実習に臨むこと。／ 2. 地域養生看護学(在宅概論)、地域養生看護学(在宅援助)の講義内容を復習すること。／ 3. 実習ガイダンスの参加し、提示された事前課題に取り組み準備性を高めること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing:根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
地域養生看護学実習(在宅) ルーブリック評価表 参照	地域養生看護学実習(在宅) ルーブリック評価表 参照

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
実習態度		○	○	○	○		20%
実習記録	○	○	○		○		50%
発表会・グループワーク・カンファレンスへの参加度	○	○	○	○	○		30%

課題、評価のフィードバック	1. 実習記録の指導時間を設け、定期的にフィードバックする。 2. ルーブリック評価の自己評価と教員評価を比較検討し、必要に応じてフィードバックする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	「訪問看護関連施設」及び「地域包括支援センター」での施設オリエンテーション	「訪問看護関連施設」及び「地域包括支援センター」における現地でのオリエンテーションを受け、当該施設の特徴・役割などの概要を知る	
	第2回	在宅療養者とその家族の生活の総合的理解①	1)在宅療養者とその家族の価値観や生活スタイルの尊重 2)在宅療養者の健康状態と生活機能上の課題を関連づけ	
	第3回	在宅療養者とその家族の生活の総合的理解②	3)在宅療養者の物理的・人的環境の把握 4)在宅療養者とその家族の生活機能を維持・向上するための方向性	
	第4回	在宅療養者とその家族の生活の総合的理解③	5)介護が家族に及ぼす影響	
	第5回	在宅療養者とその家族に必要な看護上の課題①	1)在宅療養者とその家族に関する必要な情報の収集 2)在宅療養者とその家族に関する情報のアセスメント	
	第6回	在宅療養者とその家族に必要な看護上の課題②	3)抽出された看護上の課題の妥当性の判断 4)在宅療養者とその家族に適した看護上の課題の優先度	
	第7回	在宅療養者とその家族に必要な看護目標・計画の妥当性①	1)看護上の課題と目標(アウトカム)との関連	
	第8回	在宅療養者とその家族に必要な看護目標・計画の妥当性②	2)目標と看護計画の関連	
	第9回	在宅療養者とその家族に必要な看護目標・計画の妥当性③	3)セルフケア能力を高めるための個別的な援助	
	第10回	訪問看護(訪問看護ステーション等)の役割・機能①	1)訪問看護ステーション等の地域特性 2)訪問看護ステーション等の役割・機能(医療的判断・処置、看取り、夜間対応等)	
	第11回	訪問看護(訪問看護ステーション等)の役割・機能②	3)介護保険制度や医療保険制度の利用状況 4)他機関・他職種との連携	
	第12回	地域の特徴に応じた保健医療福祉の連携①	1)地域包括支援センターにおける各専門職の役割 2)地域内にあるさまざまな社会資源の活用状況	
	第13回	地域の特徴に応じた保健医療福祉の連携②	3)地域における高齢者の権利擁護のための支援 4)地域における介護予防に向けた取り組み	
	第14回	カンファレンス・グループディスカッション	カンファレンスやグループワークを通して、各施設での個々の学びをメンバー全員が共有し、その内容を「振り返りシート」にまとめる	
	第15回	「訪問看護関連施設実習」及び「地域包括支援センター実習」の統括	「訪問看護関連施設実習」及び「地域包括支援センター実習」それぞれでの学びを本実習の目的・目標に照らし合わせてディスカッションし、話し合った内容をまとめ、発表会と全体討議を行う	
	試験	試験はない。		
授業の進め方		地域養生看護学実習(在宅)の実習要項に沿って進める。各施設の実習指導者および担当教員の指導のもとで実習する		
授業外学習の指示		【予習】予定の実習内容に関して、講義や演習で学んだことを復習する(60分) 【復習】その日の実習を振り返り、その内容・疑問・考察等を「行動計画用紙」または「振り返りシート」にまとめる(60分) (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	スーディ神崎和代編:在宅看護学講座 ナカニシヤ出版(2015) 櫻井尚子編 ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
参考書	正野逸子、本田彰子編著 在宅看護過程 メヂカルフレンド社
参考URLなど	なし
その他	なし